

特性シャーデンフロイデとその受容困難さが精神的健康に与える影響についての検討

国際文化研究科 国際文化専攻
臨床心理学研究分野 博士前期課程
2025年3月修了

渡邊 幸汰

主査 森川 友子 副査 中富 尚宏 樋渡 孝徳

研究背景

他者の失敗に歓喜する感情は「シャーデンフロイデ」(Schadenfreude: 以下SF)という造語で呼ばれており、人間誰しもが持つ一般的な感情であるとされている。近年では、SFを個人特性として捉え、他者への悪意や敵意を含むかという点で、良性SF(他者への悪意・敵意を含まないSF)と悪性SF(左記を含むSF)に二分した、Trait Schaden freude Scale (TSS; Crysel & Webster, 2018)が作成されている。

研究目的

性格傾向としてのSFの感じやすさと妬み、ユーモア志向性、Big Fiveなどの特性との関連について検討した研究(Crysel & Webster, 2018; 加藤・藤森, 2021)は行われているものの、SFの受容困難さに関する研究は行われていない。そこで、本研究では、性格傾向としてのSFに対する受容困難さが精神的健康にどのような影響を与えるかについて検討することを目的とする。

研究概要

表1 良性シャーデンフロイデとその受容困難さを従属変数とした分散分析結果

	良性シャーデンフロイデ		F値
	高群	低群	
	Mean (SD)	Mean (SD)	
良性シャーデンフロイデの受容困難さ	20.5 (4.57)	15.0 (5.50)	49.00**

**p<.01

表2 悪性シャーデンフロイデとその受容困難さを従属変数とした分散分析結果

	悪性シャーデンフロイデ		F値
	低群	デ高群	
	Mean (SD)	Mean (SD)	
悪性シャーデンフロイデの受容困難さ	13.9 (5.89)	19.2 (5.14)	37.85**

**p<.01

表3 良性シャーデンフロイデとその受容困難さを要因、精神的健康を従属変数とした二要因分散分析結果

	Mean (SD)		F値		
	受容困難さ低群	受容困難さ高群	良性シャーデンフロイデ	受容困難さ	交互作用
	n=65	n=23			
良性シャーデンフロイデ低群	24.7 (8.87)	25.3 (10.9)			
良性シャーデンフロイデ高群	24.5 (7.64)	24.3 (10.2)	—	—	—
	n=14	n=63			

—n.s.

表4 悪性シャーデンフロイデとその受容困難さを要因、精神的健康を従属変数とした二要因分散分析結果

	Mean (SD)		F値		
	受容困難さ低群	受容困難さ高群	悪性シャーデンフロイデ	受容困難さ	交互作用
	n=63	n=22			
悪性シャーデンフロイデ低群	23.5 (8.95)	21.0 (8.67)			
悪性シャーデンフロイデ高群	24.9 (7.98)	27.1 (10.6)	5.12*	—	—
	n=23	n=57			

*p<.05, —n.s.

成果・まとめ

良性SFと悪性SFは、双方共に日常的に感じやすい人の方が感じにくい人よりも受容困難さが高く、良性SFにおいては感じやすさと受容困難さのいずれも精神的健康には影響を及ぼさない、悪性SFにおいては、感じやすさだけが精神的健康に影響を及ぼすという結果が示された。

悪性SFは、そのネガティビティの濃さ故に、受容困難さにかかわらず、感じやすさそれ自体が精神的健康に影響を及ぼしたものと考えられる。



指導教員コメント

SFに関する研究は多くありますが、SFに対する受容に注目したのは、渡邊さんのオリジナルです。渡邊さんは元々、悪性にしろ良性にしろ、SFをよく感じ、かつ、そうした自分を受け容れることができている人は、精神的に自由で健康であるという実感をもっていました。今回の調査では、良性・悪性SFいずれも、その受容困難さが精神的健康と関連しないという結果となりました。しかしこれについてはまだ探求し甲斐があるかもしれません。他人の不幸は蜜の味、受容困難はワサビの味、どちらも程よく感じ、味わえる人は、確かに豊かでしょう。SF研究の領域に一石を投じる研究となりました。

森川 友子